

平成22年度事業報告書

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで
特定非営利活動法人 健康を考える会

1 事業の成果

- 1) 本年度の活動は、水郷日田の根幹を揺るがす地下水や河川の水質悪化に伴う健康被害が懸念される問題が発生したため、水質汚染防止を推進する市民グループと協力した活動を中心に行った。問題の発端は、平成21年12月に日田市天ヶ瀬町塚田地区に畜産振興の一環として、県と民間企業が開発を進めている「肥育牛飼育施設」の事業地において、大量の牛糞堆肥の投棄が確認され、地域住民から地下水や河川の水質汚染の可能性があるとして、反対運動が立ち上がったことが契機となっている。
- 2) 具体的な活動としては、「健康を考える会」が前期に行った「新型インフルエンザの罹患患者および予防を期待する応募者への日田天領水のプレゼント」企画で使用したプレハブ事務所を水質汚染防止の啓蒙用施設として提供し、屋内に啓蒙用の写真、記事等を掲示して市民に公開した。展示物の基本コンセプトおよび内容は以下のとおりとした。

NPO 法人 健康を考える会 / 水に関する展示物について

基本コンセプト

水郷日田の水を考えよう！

清らかな水が育む人々の健康と、天領日田の地域活性化のために！

日田は町の中心を清らかな川が流れ、古来より日田を訪れる人々は水と親しみ、川はまた日田に住まう人々の生活を支えてきました。いつの日からか水郷日田と呼ばれ、日田盆地の底霧とともに多くの文人にも愛されてきました。

また川は、日田の主要産業である林業を支える大きな役割も果たしてきました。川を使って木材を運ぶ「いかだ流し」が木材を久留米に運ぶ輸送手段として活躍し、日田の今日の繁栄の礎を築きました。

現在では三隈川での「遊船」や「鮎釣」で多くの人々が日田を訪れ、水郷日田を満喫されています。

このように日田の町は、昔から今日に至るまで清らかな「水」の恩恵を受けております。この素晴らしい日田の「宝物」を、よりよい形で未来へつなぐのは、今を生きている我々の責任であります。その思いから、「水と日田のかかわり」を写真で紹介しながら、「未来へつなぐために何をしなければならないか」を一緒に考えるための課題を提案します。

“続き”

ゾーン（１）生活を支える「水」

特に産業に関連するコメントを入れる。

写真：いかだ流し、淡水魚センター、水遊び、遊船、鮎釣等

ゾーン（２）「水」との戦い

水害との戦いのコメントを入れる。

写真：S28年水害、銭淵橋の酒樽、若宮町内の被害、

ゾーン（３）生命を支える「水」

上水、下水の施設整備および流域の発電所建設の歴史をコメントする。

写真：上水施設、広域下水処理施設、簡易水道施設、発電所、ダム等

ゾーン（４）共存する「水」

筑後川の上流から下流までのつながり

写真：上流から下流までの写真

ゾーン（５）未来へつながる「水」

水質汚染、生態系の変化、水質保全への取組み等を紹介し、今我々が何をすべきかを提案する。

写真とデータ：水質の変化、水質汚染の原因、川の生態系の変化のデータ、筑後川流域で現在水質保全に取り組んでいる団体等の紹介をする。

最後に「水」と健康について触れて「健康を考える会」との関係を明確にする。

日田市民にとって興味があり、守らなければならない「宝物」としてメディアに載せる。

- 3) 水質汚染防止啓蒙施設は、平成23年2月17日に県、市、民間企業進めていた「肥育牛飼育施設」事業が白紙撤回されるまでの期間市民に開放されていたが、市民が自由に出入り出来るようにしたため、期間中の正確な総入場者数は把握できていないが、週末には多いときで40-50名の市民や観光客が訪れており、延べ人数は約600名になると推測され、水質汚染防止の啓蒙活動と「健康を考える会」を市民に方に知っていただくための効果は十分であったと考える。

また市民活動の盛り上がりから、地元住民のみに止まらず、水と関わりの深い漁業協同組合、森林組合、温泉旅館組合、観光協会、飲食業組合、建設業組合等、市内の主な諸団体や企業40社が加入する「水郷日田の水を守る会」の設立においては、事務局長を「健康を考える会」の会員が引き受けるなど、積極的な支援を行った。その結果、先にも述べた

ように、平成23年2月17日に県、市、民間企業進めていた「肥育牛飼育施設」事業が白紙撤回されるという大きな成果につながった。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲及び人数	支出額(千円)
水活用の健康増進事業	実施しなかった					0
人材育成事業	実施しなかった					0
生活環境美化事業	実施しなかった					0
広報活動事業	HP および水質汚染防止啓蒙活動を通じて、当法人の活動の紹介や健康に関する情報の提供を行った。	H22.5- H23-2	HP 上 展示室 にて	10人	HPを検索又は展示室を訪問した人約600名	412

(2) その他の事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の人数	支出額(千円)
その他の事業	実施しなかった				0

(備考)

- 2は、(1)には特定非営利活動に係る事業、(2)にはその他の事業について区分を明らかにして記載する。
- 2の(1)については事業毎に定款の事業名、事業内容、実施日時、実施場所、従事者の人数、受益対象者の範囲及び人数並びに支出額をそれぞれ記載する。
- 2の(1)のうち「受益対象者の範囲及び人数」の欄には、具体的な受益対象者及び人数を記載する。
- 2の(2)については事業毎に定款の事業名、事業内容、実施日時、実施場所、従事者の人数及び支出額をそれぞれ記載する。定款上、「その他の事業」に関する事項を定めている場合は、当該事業年度に実施しなかった場合も「実施しなかった」旨を記載する。

平成22年度「特定非営利活動に係る事業」会計財産目録

平成23年3月31日現在
特定非営利活動法人 健康を考える会

科目・摘要	金額 (単位:円)		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
現金 現金手許有高	55,505		
預金	50,000		
未収金 H22年度会費10名分			
流動資産合計		105,505	
2 固定資産			
会議用テーブル・椅子	604,763		
事務用机・椅子	94,181		
カーテン一式	48,932		
看板一式	83,957		
空調機器一式	437,046		
固定資産合計		1,268,879	
資産合計			1,374,384
II 負債の部			
1 流動負債			
短期借入金	0		
預り金	0		
未払い金	10,631,866		
流動負債合計		10,631,866	
2 固定負債			
長期借入金	0		
退職給与引当金	0		
固定負債合計		10,631,866	
負債合計			10,631,866
正味財産			△9,257,482

(備考)

1 ①の部分には、財産目録を会計ごとに区分して作成する場合には、「特定非営利活動に係る事業」、又は「その他の事業」と記載し、それぞれ別葉として作成する。(ただし、財産目録については会計ごとに作成せず、法人単位に作成することも考えられる。その場合、この書類の題名は、単に「財産目録」となる。)

2 前事業年度の末日現在における資産及び負債を記載する。

平成22年度「特定非営利活動に係る事業」計貸借対照表

平成23年3月31日現在
特定非営利活動法人 健康を考える会

科目	金額(単位:円)		科目	金額(単位:円)	
I 資産の部			II 負債の部		
1 流動資産			1 流動負債		
現金預金			短期借入金	0	
現金(手許)	0		預かり金	0	
預金	55,505		未払い金	10,631,866	
未収金	50,000		流動負債合計		10,631,866
流動資産合計		105,505	2 固定負債		
2 固定資産			長期借入金	0	
会議用机・椅子	604,763		退職給与引当金	0	
事務用机・椅子	94,181		固定負債合計		0
カーテン一式	48,932		負債合計		10,631,866
看板一式	83,957		III 正味財産の部		
空調機器一式	437,046		前期繰越正味財産	△ 8,375,938	
固定資産合計		1,268,879	当期正味財産増加	105,000	
資産合計		1,374,384	当期減少額	△ 986,544	
			正味財産合計		△ 9,257,482
			負債及び正味財産 合計		1,374,384

(備考)

- ① の部分には、「特定非営利活動に係る事業」、又はその他の事業を行う場合にあっては「その他事業」と記載し、それぞれ区分して別葉として作成する。
- 全事業年度の末日現在における資産、負債及び財産を記載する。

平成22年度「特定非営利活動に係る事業」会計収支計算書

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで

特定非営利活動法人 健康を考える会

科目	金額 (単位:円)		
(資金収支の部)			
I 経常収入の部			
1 会費・入会金	50,000	50,000	
2 事業収入			
水活用の健康増進事業収入	0	0	
人材育成事業収入	0	0	
生活環境美化事業収入	0	0	
広報活動事業収入	0	0	
		50,000	
3 その他収入			
借入金	732,727	732,727	
未収金回収	55,000	55,000	
経常収入合計			837,727
II 経常支出の部			
1 事業費			
水活用の健康増進事業費	0		
人材育成事業費	上記に含む		
生活環境美化事業費	0		
広報活動事業費	412,109	412,109	
2 管理費			
通信費	232,122		
備品・消耗品費	0		
光熱費	193,496		
会議費	0		
交通費	0		
会議費	0		
図書印刷費	0		
報酬費	0		
事務費	0		
雑費	0		
		425,618	
経常支出合計			837,727
経常収支差額			0
当期収支差額			0
前期繰越収支差額			0
次期繰越収支差額			0

科目	金額（単位：円）		
(正味財産増減の部)			
V 正味財産増加の部			
1 資産増加額	105,000		
当期収支差額	0		
		105,000	
2 負債減少額			
借入金返済	0	0	
増加額合計			105,000
VI 正味財産減少の部			
1 資産減少額			
当期収支差額	0	0	
原価償却額	253,817	253,817	
2 負債増加額			
借入金	732,727	732,727	△
減少額合計			986,544
当期正味財産減少額	986,544		△ 986,544
前期繰越正味財産額	8,375,938		△ 8,375,938
当期正味財産合計			△ 9,257,482

(備考)

- 1 ① の部分には、「特定非営利活動に係る事業」、又はその他の事業を行う場合にあっては「その他の事業」と記載し、事業毎に区分して別業として作成する。
- 2 定款上、「その他の事業」に関する事項を定めている場合は、前事業年度に実施しなかった場合でも収入支出0円の収支計算書を作成する。
- 3 その他の事業から収益が生じた場合は、その他の事業会計収支計算書及び特定非営利活動に係る事業会計収支計算書について、その他の事業会計から特定非営利活動に係る事業会計への繰入が明らかになるような科目を追加する。
- 4 「事業費」とは、法人の事業の実施のために直接要する支出で、管理費以外のものをいい、会計処理上は、事業の種類ごとに区分して記載する。事業費の例としては、「〇〇事業費」（注・・・当該事業の実施のために直接要する人件費・交通費等の費用が含まれる。）等が挙げられる。
- 5 特に、支出規模（事業費＋管理費）でみた特定非営利活動に係る事業の割合、総支出額に占める管理費の割合等は、特定非営利活動を行うことを主たる目的とすること、営利を目的としないものであることという法定要件への適合性の判断材料となる。この点については「NPO法の運用方針」についてを参照のこと。

前事業年度の役員名簿

平成22年4月1日から平成23年3月31日まで
特定非営利活動法人の名称 健康を考える会

役名	氏名	住所又は居所	就任期間	報酬を受けた期間
理事	木村 芳美		H22年4月1日	報酬なし
理事	赤尾 武男		~	
理事	恒藤セツノ		H24年3月31日	
監事	井上 香			

(備考)

- 1 「役名」の欄には、理事、監事の別を記載する。
- 2 「住所又は居所」の欄には、特定非営利活動促進法施行条例第2条第2項に掲げる書面（住民票等）によって証された住所又は居所を記載する。
- 3 「就任期間」の欄には、左に記載された役員全員について記載し、「報酬を受けた期間」の欄については、報酬をうけたことがある役員のみについて記載する。